

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第四百七十二條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

第四百七十三條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第四百七十四條 司法卿ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閱シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條 勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ依リ復權ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

第四百七十六條 復權ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致ス可シ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入ス可シ

第三章 特赦

第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルコトヲ得

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

第四百七十八條 司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得

死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セズ

第四百七十九條 特赦ノ申立棄却アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第四百八十條 特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

○第三十八號 七月廿日

本年八月一日ヨリ硫酸無稅輸出差許候條此旨布告候事

但課税ノ節ハ二月前ニ布告スヘキ事

○第三十九號 九月二十七日

明治十一年(十二月)第三十七號布告西洋形松水先免狀規則第十九條第四項左ノ通改正  
候條此旨布告候事

(原達訂正)

○第四十號 九月二十七日

今般酒造税則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ従前ノ酒類税則ハ同日ヨリ廢止候  
條此旨布告候事

別冊

酒造税則

第一章 免許鑑札 税率

第一條

凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札  
ヲ受クヘシ

第二條 (明治十五年第十七號布告改正)

酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒 燒酎酒精再溜酒精其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類 再製酒 醱酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ  
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 (明治十五年第六十一號布告改正)

免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許税

酒造場一ヶ所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 (明治十五年第六十一號布告改正)

免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒 百石

明治十三年

濁酒

十石

一類(清酒濁酒ヲ除ク)二類三類 五石

新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘン

第五條 (明治十五年第六十一號布告改正)

酒造營業人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘン

第六條

免許鑑札賣買誤與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘン

第七條

免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘン

第二章 納税 造石検査

第八條

免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘン

第九條 (明治十五年第十七號布告改正)

造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘン

第一期

四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期

七月卅一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期

九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 (明治十五年第六十一號布告改正)

造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘン

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其旨管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘン

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘン

第十一條

前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘン

第十二條

自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税

ヲ納ムヘシ

第十三條

検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石数ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條

検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條

検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石数ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石数ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條

皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條

前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石数ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得

サル者及ヒ廢業シタル者ハ其石数ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條

葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スルモノハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條

酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もど其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 (明治十六年八月第二十六號布告改正)

酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ク其買讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ツヘシ

酒造着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得メシテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコトヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済ニ係ル造石税ヲ完納ス可シ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 (明治十五年第十七號布告改正)

酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニアラス

第二十二條 (明治十五年第六十一號布告改正)

他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條 (明治十五年第六十一號布告改正)

檢査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス檢査既済ノ酒類へ檢査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條

免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條

造酒<sup>搾リ</sup>器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條

免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數並其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條

酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ニ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條

一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條

免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條

免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚々免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 (明治十五年第六十一號布告改正)

酒類石數檢査ヲ受ケスレテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類

ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ  
但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 (明治十五年第六十一號布告改正)

酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十三條

檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 (明治十六年第二十六號布告改正)

第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 (明治十六年第二十六號布告改正)

第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 (明治十五年第六十一號布告追加)

第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 (明治十五年第六十一號布告追加)

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 (明治十五年第六十一號布告追加)

酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則 (明治十五年第六十一號布告ヲ以テ以下各條追加)

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石(二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再度又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

右奉 勅旨布告候事

○第四十一號 九月廿七日

酒類營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊) 酒類營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ酒類(釀造酒類ノモト)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受テ一期營業稅トシテ左之通納ムヘシ

酒類營業 稅金五拾圓  
第二期 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置

※翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受ケヘシ

酒類及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ (十五年六十二號) (ヲ以本項追加)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ酒類賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ヘ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス酒類ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵收スヘシ

第十一條 前條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵收ス

ヘシ

第十二條 醫麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受買醫麴受買酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(醫麴ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サス(十五年六十二號ヲ以木條以下追加)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醫麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○第四十貳號 九月廿八日

今般第四拾號布告酒類稅則第一章第五條營業出願期限ノ儀ハ本年ニ限り來ル十一月三十日迄延期候條此旨布告候事

○第四十三號 十月五日

地所名稱區別中民有地第二種ニ左ノ通追加候條此旨布告候事(原達訂正)

○第四十四號 十月八日

內務省所轄小笠原島ヲ東京府管轄ニ被屬候條此旨布告候事

○第四十五號 十月十二日

明治九年(七月)第九十八號布告左ノ通改正候條此旨布告候事

己ニ許可ヲ得タル新聞紙雜誌雜報國安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタルトキハ內務卿ニ於テ其發行ヲ禁止シ又ハ停止スヘシ

○第四十七號 十月廿七日

明治六年(三月)第二百一十一號布告金札引換公債証書發行條例并改正追加之分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

(別冊) 改定金札引換公債証書條例

第一章 總則

第一條 金札引換公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第二條 金札引換公債証書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五拾圓ノ三種トス

第三條 何人ニテモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種証書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債証書ニ交換スルヲ得ヘシ

(本條ハ明治十六年十二月第四十八號布告ニ依リ停止セラレタリ)

第四條 金札引換公債証書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ裁斷



スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其証書交付ノ年ヨリ三ヶ年据置キ四ヶ年目ヨリ向十二ヶ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分(百分ノ六)トシ元金消却ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ  
但シ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半々月分ヲ下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシトキマテノ分下渡スヘシ

第三章 証書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債証書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣並ニ紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ  
第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取リ其受領証ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債証書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ  
第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領証ヲ交付スルノ各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債証書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛リノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側ヘ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ本人ヘ渡置キタル受領證ト引換ヘシ證書ヲ交付スヘシ  
但シ證書交付ノ後チ他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ每翌月五日マテニ大藏省國債局ニ届ケ出ツヘシ

第十一條 公債証書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシ翌月五日マテニ之レヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第四章 證書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債証書ハ従前ノ金札引換公債証書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以テ點數スヘシ

第十三條 金札引換公債証書ノ所有者ニ於テ始メテ之レヲ他人(外國人ヲ除ク)ヘ賣渡シ若クハ讓渡サントスルハ其證書ヲ其地方管廳ヘ差出シテ繼足紙ヲ附願スヘシ  
管廳ニ於テハ新舊公債証書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ

下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但シ利息渡方混濬セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日マテ十月一日ヨリ十一月十五日マテ證書ノ讓渡シ賣買ノ届出ヲ見合ヌヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換ユヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年五月第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第四條ヨリ第十二條マテ及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ各條ニ準據スヘシ

○第四十八號 十一月五日

今般歲計ヲ節約シ紙幣消却ノ元資ヲ増加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ左ノ通制定布告候事

第一條 本年(四月)第十六號布告第一條地方税目中「地租五分一以内」トアルヲ「地租三分一以内」ト改定ス

第二條 同上布告第三條地方税ヲ以テ支辨スヘキ費目中左ノ三項ヲ増加ス

一 府縣廳舍建築修繕費 一 府縣監獄費 一 府縣監獄建築修繕費

第三條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ府縣土木(即チ河港、道路、堤防、橋梁建築修繕)費中

官費下渡金ハ來ル十四年度ヨリ廢止トス(十四年十號ヲ以本條中刪除)

○第五十號 十一月十二日

本年(六月)第三十一號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ怠納スル者ハ十年(十一月)第七十九號布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘシ此旨布告候事

○第五十二號 十一月三十日

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年(六月)第百六號布告并同年(十月)第百五十三號布告廢止候事

(別紙) 土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ(賣渡讓渡)證文ニ地券ヲ添ヘ其地ノ戶長役場ニ差出シ與書割印ヲ受テ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ

但一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分界及坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ(十五年第二號布告達ヲ以テ土地分割手續ヲ定ム)

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡與書割印帳ヲ備置キ與書割印ヲ請フモノアレハ地所賣入書入與書割印帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ(賣渡讓渡)證文ニ與書割印ヲナスヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人(買渡讓渡)証文ヲ領収スル片ハ地券書換裏書願書ニ雙方連印ノ土地券ヲ添ヘ戸長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ得ルト雖モ地租并地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵収スヘシ

但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及ヒ離縁戸主ノ家督相續ニ由リ土地ヲ讓受タル者ハ親族親族ナキモノト連印ノ上戸長役場ヲ經テ地券書換裏書願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續ノ日ヨリ六箇月以内ニ戸長役場迄之ヲ差出サル者ハ証印稅五倍ノ科料ニ處ス

但本條期限内ニ地券(書換裏書)願書ヲ差出ス能ハサル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニ在ラス

○第五十三號 十二月九日 凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラヌ彈テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

○第五十七號 十二月廿三日

明治十一年(五月)第八號布告株式取引條例第一章第二條中其資本金額ハ貳拾萬圓ヲ拾

萬圓ト改正シ及ヒ第五章第三十條ヘ左ノ通但書追加候條此旨布告候事(原達訂正)

○第五十九號 十二月廿八日

明治十二年(九月)第四十號布告教育令左ノ通改正候條此旨布告候事

(十八年二十三號ヲ以改正ニ付左書畧ス)

○明治十四年之部

○第一號 一月十日

京都府管下伏見區相廢候條此旨布告候事

○第三號 二月七日

今般福井縣ヲ置キ越前若狹兩國一圓管轄セシメ堺縣ヲ廢シ大坂府へ合併候條此旨布告候事

但福井縣廳ノ位地ハ越前國足羽郡福井ニ相定候事

○第六號 二月十四日

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○第八號 二月十四日

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會規別左之通相定メ明治十三年(五月)第二十六號及第二十七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スルコトヲ得(十四年二十號)  
ヲ以但書追加

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別

明治十四年

シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

第六條 (十五年十二號ヲ以テ削除)

第七條 (全上)

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方税ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋税ト爲スコトヲ得(十五年十二號ヲ以テ本條追加)

○第十號 二月十四日

明治十三年(十一月)第四十八號布告第三條中(地方税ヲ以テ支辨スヘキ)ノ十一字刪除候條此旨布告候事

○第十一號 二月十六日

群馬縣廳位置ヲ上野國前橋ニ改定候條此旨布告候事

○第十二號 二月十七日

明治十二年(五月)第十九號布告西洋形商船免狀ハ自今蒸汽船ハ十噸帆前船ハ二十噸以下及ヒ港川港灣ヲ限リ運轉スル者ハ其船免狀ヲ受有スルニ及ハス此旨布告候事

○第十四號 二月十七日

明治十年(七月)第五十三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事  
但市街宅地地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ  
(十五年二十四號ヲ以テ書改正)

地租徵收期限

一期 該年七月一日ヨリ  
二期 同 八月三十一日限

畑方及ヒ宅地山林原野牧場  
五分

明治十四年

二期同 九月一日ヨリ  
十月三十一日限

同

五分

田方

同

五分

同

三期同 十一月一日ヨリ  
十二月十五日限

同

五分

同

△明治十八年六月第十五號布告  
明治十四年(二月)第十四號布告地租徵收期限第三期以下左ノ通改正ス

田方

三期 該年十一月一日ヨリ  
十二月十五日限

二分五厘

同

四期同 十二月十六日ヨリ  
翌年一月二十五日限

二分五厘

同

五期同 一月二十六日ヨリ  
三月三十一日限

二分五厘

同

六期同 四月一日ヨリ  
四月二十日限

二分五厘

右奉 勅旨布告候事

○第十五號 二月廿五日

明治十年(十一月)第七十九號布告第一條中(後三十日)ノ四字及同十一年(十月)第三十  
四號布告中第五條刪除候條此旨布告候事

○第十六號 二月廿八日

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告  
候事

第一條 東京府ハ警察費總高ノ十分ノ六トス

第二條 京都府大坂府并各縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ地方稅支出高ノ十分ノ三トス

第三條 前二々條割合ノ外警察官吏(巡査ヲ除ク外等外吏トモ)並ニ之ニ準スヘキ府内  
外國人ノ諸給與警祝廳ノ廳費ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○第十七號 三月八日

集治監ニ入ルヘキ囚徒并ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條  
此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費

明治十四年

用府縣獄ニ拘留中ノ費用并ニハ國庫ヨリ支給スヘシ  
集治監ニ押送ノ費用トモ  
第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ  
地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○第十九號 三月廿九日

明治十年(七月)第四十九號布告自今廢止候條此旨布告候事

○第二十號 三月廿九日

本年(二月)第八號布告左ノ通但書追加候條此旨布告候事(原達訂正)

○第二十一號 四月七日

今般農商務省設置候條此旨布告候事

○第二十二號 四月九日

福非縣管内裁判事務ノ儀金澤裁判所ニ屬センメ候條此旨布告候事

○第二十六號 四月廿六日

明治十年(一月)第七號布告賣藥規則第十六條及第二十三條中左ノ通刪除追加候條此旨  
布告候事(原達訂正)

○第二十七號 四月廿九日

明治十四年五月十五日ヨリ硫黃無稅輸出差出候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

○第二十八號 五月六日

明治十一年(五月)第八號布告格式取引條例第二十六條削除候條此旨布告候事

○第三十號 五月廿五日

地券証印稅左ノ通改正明治十四年七月一日ヨリ施行シ從前ノ證印稅則ハ同日ヨリ廢止  
候條此旨布告候事

証印稅則

地券ニ記セシ

金高拾圓未滿

券狀壹通ニ付

金高(拾圓以上貳百圓未滿)

三分ノ五 錢

金高(貳百圓以上五百圓未滿)

壹圓貳拾五錢

金高(五百圓以上千圓未滿)

壹圓貳拾五錢

金高(千圓以上貳千圓未滿)

貳圓五拾錢

金高(貳千圓以上五千圓未滿)

三圓七拾五錢

金高(五千圓以上壹萬圓未滿)

五圓

金高(壹萬圓以上)

明治十四年

右ニ掲クルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラス券狀一通ニ付三錢トス  
代換授與并ニ水火盜難ニヨリ地券書換  
荒地其他無代價地券授與書換  
荒地起返及開墾鐵下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所有  
主變換セサル地券書換

○第三十一號 五月廿五日

明治九年(八月)第百五號布告米商會所條例中內務省及內務卿又ハ大藏卿トアルハ都テ  
農商務省及農商務卿ト改正候條此旨布告候事

○第三十二號 五月二十六日

西洋形權衡製作檢査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト同様相用  
フヘン此旨布告候事 (印章ハ朱刷)



換

○第三十三號 五月二十八日

明治十三年(七月)第三十五號布告海上衝突豫防規則左ノ通追加候條此旨布告候事  
但明治九年(二月)第十一號布告廢止候事

罰則

第二十七條 (原達訂正)

○第三十四號 五月二十八日

明治十三年(七月)第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務  
省ノ許可ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以  
下ノ罰金ニ處ス

右布告候事

○第三十六號 七月八日

刑法治罪法來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○第三十七號 七月八日

開拓使管下渡島釧路兩國ノ内左ノ適合郡名稱變更候條此旨布告候事

渡島國 福島郡 津輕郡

右二郡ヲ合セテ松前郡ト改稱

釧路國 網走郡

右北見國へ編入網走郡ニ合セ網走郡ト稱ス

○第三十八號 七月廿一日

教育令第九八條小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍リ難キ事情アルトキハ別ニ區域ヲ畫

明治十四年



スルヲ得ヘシ此旨布告候事 (十八年二十三號ヲ以文中改正)

但本文ノ區域内ニ於テ會議ヲ要スルトキハ區町村會法第八條第十四條及第十五條ニ準據スヘシ (十七年廿一號ヲ以文中改正)

○第三十九號 七月廿九日

金澤裁判所管内越前國敦賀郡若狹國一圓自今京都裁判所管轄ニ屬シ候條此旨布告候事

○第四十一號 八月廿五日

明治八年(五月)第九十五號布告新舊公債證書發行條例第六條第二節へ左ノ但書及附録ニ左ノ圖面追加候條此旨布告候事 (原達訂正)

○第四十二號 九月十二日

今般鳥取縣ヲ證キ因幡伯耆兩國一圓管轄セシメ候條此旨布告候事

但縣廳ノ位置ハ鳥取ニ相定候事

○第四十三號 九月十三日

明治九年(六月)第八十二號同年(二月)第十一號同年(二月)第二十四號同年(五月)第九號同年(五月)第十九號布告中内務省又ハ大藏省トアルハ農商務省ト改正内務卿又ハ大藏卿トアルハ農商務卿ト改正候條此旨布告候事

○第四十四號 九月廿日 (十八年三十一號ヲ以廢止)

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判官達ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

○第四十六號 九月廿日

書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内ハ不及其儀候事

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告入ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

○ 治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト相定候事

○ 治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得

○ 治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船

宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラヌ搜索致シ苦シカラヌ

○ 治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルコトヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルコトヲ得

○ 治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルコトヲ得サル旨記載有之候ヘトモ當内ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカラヌ  
右布告候事

○ 第四十七號 九月二十日

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ証書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○ 第五十一號 九月廿九日

今般英國ト郵便爲替定約別冊ノ通取結相成本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊) 帝國日本驛遞局ト大英國驛遞院トノ間ニ取結ヒタル郵便爲替定約

第一條 爲替交換ノ事

帝國日本ト大英國トノ間ニ「プリンゼシ」ヲ經テ毎週出發ノ郵便ヲ以テ爲替ヲ執リ行フヘシ

第二條 爲替証書ノ金額ハ英國貨幣「ポンド、ステルリング」ヲ以テ記載スヘキ

事附日本郵便局ニ於テ金員引直シ方ノ事

爲替証書ノ金額ハ双方「ステルリング」ヲ以テ記載スヘシ而シテ兩國ノ間貨幣ノ相場ニ時々昇降アルカ爲ニ日本驛遞局ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金額ヲ引直シ得ルコトヲ茲ニ約束ス即チ英國ニ爲替ヲ取組ム爲メ日本驛遞局ニ於テ受領シタル金員ハ爲替ヲ振出時ノ相場ヲ以テ「ステルリング」ニ引直シ又日本ニテ拂渡ス爲メ英國ヨリ振出レタル爲替ノ金額ハ日本驛遞局ニ於テ之ヲ拂渡ス前日本貨幣ニ引直スヲ得ヘシ

第三條 爲替証書一通ノ金額制限ノ事

爲替証書一通ノ金額ハ方雙「十ポンド」ヲ超過スヘカラス

第四條 「ペンニー」以下ノ金額ヲ爲替証書ニ記載スヘカラサル事

「ペソニー」以下ノ端數金額ハ爲替證書ニ掲載スヘカラス

第五條 爲替金ハ金貨又ハ金貨ニ最近ノ價格ヲ以テ拂渡スヘキ事

公衆ヘ爲替ヲ拂渡スニ方リ銀貨ノ昇降ヨリシテ其拂高ニ異同ヲ生セサラシメノカ爲メ  
爲替金ハ凡テ金貨又ハ金貨ニ最近ノ價格ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ

第六條 手数料ノ事

英國驛遞院并ニ日本驛遞局ハ雙方ニ其振出ス爲替手数料ノ割合ヲ時々更定スルノ權ヲ  
有ス

手数料ハ凡テ振出局ノ収入トス但シ日本驛遞局ハ日本ヨリ振出シ英國ニ於テ拂渡シタ  
ル爲替金總額ノ千分ノ七半ノ歩合金ヲ英國驛遞院ヘ拂フヘシ又英國驛遞院ハ英國ヨリ  
振出シ日本ニ於テ拂渡シタル爲替金總額ヨリ前同様ノ歩合金ヲ日本驛遞局ヘ拂フヘシ

第七條 爲替取組ハ爲替取扱局ニ限り之ヲ取扱フヘキ事

爲替ハ兩國ニ爲替取扱局ト定メタル局ニ限り之ヲ取扱フヘシ而シテ其局名ハ之ヲ目錄  
ニ製シ兩國互ニ交換スヘシ

若シ兩國中爲替取扱局ヲ變更スルコトアレハ其變更シタル一方ヨリ他ノ一方ヘ通知スヘ  
シ

第八條 爲替證書ニ登記スヘキ條件ノ事

爲替ハ差出人及ヒ受取人ノ氏名又差出人若シクハ受取人會社組合ナレハ其名號及ヒ差  
出人ノ宿等ヲ差出人ヨリ申立ルニ非サレハ之ヲ振出サ、ルヘシ

但シ差出人若シクハ受取人ノ名稱ヲ差出人ヨリ一層詳細ニ陳述セル場合ニ於テハ其  
陳述スル通りヲ通知書ニ記載スヘシ

第九條 爲替證書用紙ノ事

爲替證書及ヒ通知書ハ附録ニ掲グル甲號雛形ニ從テ之ヲ調製スヘシ

第十條 爲替證書ハ差出人ヘ交付スヘシ

爲替ヲ振出スルハ其證書ヲ差出人ヘ交付シ差出人ノ費用ヲ以テ之ヲ受取人ヘ遞送セシ  
ムヘシ

第十一條 再度ノ證書發行ノ事

爲替證書紛失シ或ハ破損シ或ハ届先ヘ達セサル場合ニ於テ緊要ナル條件ヲ書面ニ認メ  
受取人ヨリ爲替拂渡國ノ爲替取扱本局ヘ出願スルキハ再度ノ證書ヲ振出スヘシ而シテ  
此場合ニ於テ其局ハ再度ノ手数料ヲ請求スルヲ得ヘシ但シ郵便遞送中ニ證書ノ紛失セ  
シキハ此限ニアラス

第十二條 爲替ノ拂渡ヲ停止スル事

受取人ヨリ緊要ノ條件ヲ申立爲替拂渡ノ停止ヲ請願スルキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第十三條 受取人等ノ氏名書換及其他更正ノ件ハ振出國ニ於テ取扱フヘキ事  
爲替受取人若シクハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替證  
書ノ金額拂戻ヲ請願セントスル片ハ差出人ヨリ其爲替ヲ振出セン國ノ爲替本局ヘ申立  
ヘシ此場合ニ於テ該局ハ再度ノ手数料ヲ領收スルヲ得ヘシ但シ爲替ヲ取扱ヒシ役員ニ  
過誤アリタルカタメニ此請願アル片ハ此限ニアラス

第十四條 爲替金拂戻ノ事  
爲替金ハ其證書初度ノ發行ト再度ノ發行トヲ論セス拂渡國ニ於テ未タ其爲替金ヲ拂渡  
サハル旨且ツ其通知書ハ取消シタル旨ヲ拂渡國ノ爲替本局ヨリ通知アリテ其旨ヲ証明  
シタル後ニアラサレハ振出局ニ於テ之ヲ差出人ヘ拂戻サハルヘシ

第十五條 爲替證書ノ効力ヲ失フ事  
爲替金ハ證書ヲ振出シタル月ノ翌月ヨリ十二ヶ月間即チ譬ハ一月ニ振出シタル證書ナ  
レハ其翌年一月迄ニ受取ヲサレハ之ヲ請求スルノ權利ヲ失フヘシ但シ特別ノ事情アリ  
テ爲替拂渡國ノ驛遞局ニ於テ其請求ヲ許諾スル場合ニ於テハ此限ニアラス  
拂渡ヲ爲サスシテ存留シタル爲替金ハ拂渡國ノ所得ニ歸スヘシ

第十六條 通知書及ヒ通知書ノ目錄遞送方ノ事  
英國ヨリ日本ヘ振出シタル爲替ノ通知書ハ倫敦ノ爲替本局ニ於テ附録乙號雛形ニ因リ

調製セシ目錄ヘ記入シ倫敦ノ日附印ヲ押捺シテ此目錄ト共ニ「プリンヤシ」ヲ經テ每週  
出發ノ郵便ヲ以テ横濱郵便局ヘ遞送スヘシ横濱郵便局ハ其通知書及ヒ目錄ヘ日本貨幣  
ニテ仕拂フヘキ金額ヲ掲ケ之ニ印章ヲ押捺シ且其爲替金額ヲ拂渡スニ付必要ノ手續ヲ  
ナスヘシ

又日本ヨリ英國ヘ振出シタル爲替ノ通知書モ前同様ノ手續ニ從ヒ横濱郵便局ニ於テ乙  
號雛形ニ因リ調製シタル目錄ニ記入シ且ツ各證書ノ金額ヲ兩國ノ貨幣ニテ之ニ登記シ  
其局ノ日附印ヲ押捺シテ此目錄ト共ニ「プリンヤシ」ヲ經テ每週出發ノ郵便ヲ以テ倫敦  
爲替本局ヘ遞送スヘシ倫敦爲替本局ハ之レニ局用ノ日附印ヲ押捺シ且其爲替金額拂渡  
ニ付必要ノ手續ヲ爲スヘシ

目錄ハ其差立ノ順次ニ從ヒ第一第二第三第四等ノ番號ヲ付シ各年ノ始メニ於テハ第一  
號ヨリ始ムヘシ且甲國ノ目錄乙國ニ達スル片ハ乙國ハ其後始メテ遞送スヘキ目錄中ニ  
甲國ノ目錄領收ノ旨ヲ記載スヘシ

通知書及ヒ目錄ノ本書紛失等ノコヨリ不都合ヲ生セサラシメシカ爲メ兩局互ニ次便ヲ  
以テ前便遞送セシ目錄ノ副書ヲ送致スヘシ

第十七條 日本驛遞局ニ於テ調整ノ總計表ヘ記載スヘキ條件ノ事  
一ヶ月分ノ目錄ヲ日本ヨリ差立濟ノ後日本驛遞局ハ速ニ附録丙號及ヒ丁號表ニ從テ月

次計算表ヲ調製スヘシ而シテ丁號表ノ半面ヘハ其月ノ間日本ヨリ發セシ各目録ノ金額  
總計ト第六條ニ定メタル千分ノ七半ノ歩合金ト及ヒ其月ノ間英國ニテ拂戻スヘキ證書  
ノ金額トテ英國ノ貸高トシテ記載シ又他ノ半面ヘハ其月ノ間英國ヨリ受取リタル各目  
録ノ金額總計ト第六條ニ定メタル千分ノ七半ノ歩合金ト及ヒ其月ノ間日本ニテ拂戻ス  
ヘキ證書ノ金額トヲ日本國ノ貸高トシテ記載スヘシ

右ノ通り相對照シテ生スル處ノ差引殘額ハ其爲メ設ケアル項目ノ部ニ記載スヘシ  
毎年一月ヨリ十一月迄ノ間ハ前文ノ手續ヲ以テ取扱ヒ十二月ニ至テ別ニ總計表ヲ調製  
シ其年一月ヨリ十二月三十一日迄ニ日本ヨリ英國ヘ振出シタル爲替ノ總額ト英國ヨリ  
日本ヘ振出シタル爲替ノ總額トヲ之レニ記載スヘシ此總計表ハ正副二通ヲ製シ日本驛  
遞局ヨリ英國驛遞院ヘ送附スヘシ但其一通ハ承諾ノ上之ヲ日本驛遞局ヘ返付スヘシ

第十八條 差引殘金仕拂方ノ事

日本驛遞局ヨリ英國驛遞院ヘ對シ總計ノ差引殘額ヲ仕拂フニハ總計表ヲ送付スルト同  
時ニ之レヲ遞送スヘシ  
又英國驛遞院ヨリ日本驛遞局ヘ差引殘額ヲ仕拂フ場合ニ於テハ總計表ノ寫ヲ返付スル  
ト同時ニ之ヲ遞送スヘシ

此差引殘額日本ノ貸高トナリタル片ハ橫濱ヘ宛又英國ノ貸高トナリタル片ハ倫敦府ヘ

如仕拂ヲナスヘシ但此金額ハ必ス之ヲ受取ル國ノ貨幣ニテ仕拂フヘキモノトス

第十九條 拂濟證書ハ仕拂ヲ爲シタル國ニ保存スヘキ事

拂濟證書ハ雙方正其證書ノ金額ヲ仕拂ヒシ國ニ保存スヘシ

第二十條 通知書ニ爲替取扱本局ノ捺印ナキ爲替證書ハ其仕拂ヲ爲スヘカラス  
ル事

爲替金ハ兩國正其通知書ノ到着後ニアラサレハ之ヲ拂渡スヘカラス且ツ其通知書ニ振  
出シ拂渡シ兩國ノ爲替本局ノ捺印アルニ非レハ之ヲ拂渡スヘカラス

第二十一條 條目追加及ヒ改良ノ事

兩國ノ驛遞長官ハ前定約ノ旨趣ニ牴觸スルニ非レハ詐偽ヲ防キ或ハ一般ニ爲替ノ事業  
ヲ改良スヘキ目的ヲ以テ新ニ條目ヲ増設スルノ權アルヘシ但シ甲國ニテ増加セシ條目  
ハ必ス之ヲ乙國驛遞長官ヘ通知スヘシ

第二十二條 爲替手数料ヲ増加シ或ハ爲替證書ノ振出ヲ停止スル事

英國若シクハ日本ノ商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スルモノ夥多ニシテ隨テ其金員巨  
額ニ至ル片ハ適宜其手数料ヲ増加シ若シクハ一時全ク其振出ヲ停止スルノ權アルヘシ

第二十三條 定約ノ開設及ヒ其廢止ノ事

此定約ハ一千八百八十一年十月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ報知ヲ爲シタル

日ヨリ十二ヶ月間効力ヲ有スヘシ  
此約定ハ二通ニ製シ一方ハ明治十四年七月二十五日東京ニ於テ記名調印シ又一方ハ千  
八百八十一年五月十日倫敦ニ於テ記名調印スルモノ也

驛遞總官 前 島 密印  
英國驛遞總長ヘンリー、フラーセット印

甲號難形(一)

第 號

|   |    |
|---|----|
| 日 | 振出 |
| 本 | 局ノ |
| 印 |    |

|   |   |
|---|---|
| ポ | ソ |
| ト | シ |
| ル | リ |
| ン | ン |
| グ | グ |
| ペ | ニ |
| ン | ニ |

郵便爲替證書

一英金 ポント シルリング ペンニー

右ハ拙者ヨリ相廻シ置候郵便爲替通知書ニ記載セシ氏名ノ  
者へ可被拂渡候也

郵便局長

郵便局

御 中

爲替金受取人此下へ其  
氏名ヲ詳記スヘシ但シ

前書ノ金額正ニ受取候也

會社組合ナレハ其名號

受取人

ノヨニテ足レリトス

仕拂  
局ノ  
印

此證書ヲ振出シタル月ノ翌月ヨリ十二ヶ月間ニ爲替金ヲ受取  
ラサル片ハ其金額受取ノ權利ヲ失フモノトス

何人タリヒ此證書ヲ差出シタル者へ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル  
後更ニ其受取方ヲ請求スルモノアリヒ郵便局ニ於テ一切關係  
セサルヘシ

此證書ヲ截斷或ハ毀損シタル片ハ爲替金ヲ受取ルコトヲ得サルモノトス

甲號雛形(二)

第 號

本日 振出 局ノ 印

|   |   |   |
|---|---|---|
| ポ | シ | ペ |
| ソ | ル | ン |
| ド | リ | ニ |
|   | ン | ー |

郵便爲替通知書

一英金 ポンド シルリング ペンニー

右ハ當局ヨリ其局ヘ向テ振出候間此段及通知候也

郵便局長

郵便局

御 中

爲替金 受取人 氏名

爲替金 差出人 氏名

仕拂 局ノ 印

此通知書ハ振出局長及ヒ仕拂局長記名シテ局印ヲ押捺スヘシ  
此通知書ハ之ト符合シタル爲替證書ヲ受取人ヨリ差出シ其仕  
拂ヲ畢ル迄又ハ仕拂未済證書ノ通知書目録ヘ其事項ヲ登記シ  
畢ル迄仕渡局ヘ存留シ置クヘシ  
爲替證書一通毎ニ必ス通知書一通ヲ送付スヘシ

局印

形

於テ仕拂フヘキ爲替證書每週目錄

| 受取人氏名 | 日本貨幣額 | 英國貨幣額 | 仕拂局名 | 註 |
|-------|-------|-------|------|---|
|       | 圓     | ポシペ   |      |   |
| 總計    |       |       |      |   |

橫濱郵便局  
千八百 年  
英國ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替ノ通知書目錄第 號御差越正ニ致領收候  
當局ヨリ最後ノ目錄第 號差進候後日本ヨリ振出英國ニ於テ仕拂フヘキ爲替證書ノ爲メ當局ニ於テ致領收候金額ノ明細計算書今便差進候條御查收有之度候也  
郵便局長

三百七十四

乙 號

目錄第 號

日本國ヨリ振出シ英國

ノ目錄

|      |
|------|
| タル證書 |
| 金額   |
| ポシペ  |

| 月日 | 番號 | 振局 | 出名 | 差出人宿所及ヒ氏名 |
|----|----|----|----|-----------|
|    |    |    |    |           |

倫敦  
爲替取扱本局  
御 中  
追テ本文目錄御領收ノ旨御回答有之度候也

明治十四年

三百七十五



明治十四年

形  
第 月  
替證書ノ總計表

| ノ 貸 高       | 金 額 |   |   |
|-------------|-----|---|---|
|             | ポ   | シ | ペ |
| 英國ニ於<br>書金額 |     |   |   |
| 一ノ四分ノ三..... |     |   |   |
| ノ金額.....    |     |   |   |
| 國ノ貸高 總計     |     |   |   |
| リ受取ルヘキ高     |     |   |   |

第 月 中

| 英國ニ |    |    |
|-----|----|----|
| 月日  | 番號 | 振出 |
|     |    |    |

郵便局長.....

三百七十七

丙 號 雜 形

千八百 年 第 月  
振出國ニ於テ差出人ヘ拂戻シタル爲替證書

| リ振出レタル證書 |     | 日本ヨリ振出シ |    |       |
|----------|-----|---------|----|-------|
| 局名       | 金 額 | 月日      | 番號 | 振出 局名 |
|          | ポシペ |         |    |       |
| 計總       |     |         |    | 總計    |

郵便局長.....

三百七十六

丁 號 雜  
千 八 百 年  
帝 國 日 本 大 英 國 間 交 換 シ タ ル 爲

| 國 之 貨 高         | 金 額 |   |   | 英 國                           |
|-----------------|-----|---|---|-------------------------------|
|                 | ポ   | シ | ペ |                               |
| 出シ日本ニ於<br>ニ證書金額 |     |   |   | 日本ヨリ振出シ<br>テ仕拂フヘキ證<br>目 錄 第 號 |
|                 |     |   |   | 同 " "                         |
|                 |     |   |   | 同 " "                         |
|                 |     |   |   | 同 " "                         |
|                 |     |   |   | 同 " "                         |
| 一ノ四分ノ三.....     |     |   |   | 步 合 金 百 分                     |
| ノ金額.....        |     |   |   | 拂 戻 シ 証 書                     |
| 日本ノ貨高 總計        |     |   |   | 英                             |
| ヨリ受取ルヘキ高        |     |   |   | 差 引 日 本                       |

三百七十八

| 日 本       | 英 國 |
|-----------|-----|
| 英國ヨリ振     |     |
| テ仕拂フヘ     |     |
| 目 錄 第 號   |     |
| 同 " "     |     |
| 同 " "     |     |
| 同 " "     |     |
| 同 " "     |     |
| 步 合 金 百 分 |     |
| 拂 戻 シ 証 書 |     |
| 差 引 英 國   |     |

○第五十二號 十月四日  
鳥取縣管内裁判事務ノ儀松江裁判所ニ屬セシメ候條此旨布告候事

○第五十四號 十月六日  
刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ警察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於訟廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

○第五十五號 十月六日  
治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

○第五十六號 十月七日  
小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所(即チ違警罪裁判所)始審裁判所

明治十四年

三百七十九

(即ち輕罪裁判所)ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○第五十七號 十月七日

伊豆七島裁判事務當分該島吏へ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警事ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事(但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ)

○第五十九號 十月八日

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

勅諭 十月十二日

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ總攬シ、又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ、後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サント期ス、嚮ニ明治八年ニ、元老院ヲ設ケ、十一年ニ、府縣會ヲ開カシム、此レ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ、爾有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン  
願ミルニ、立國ノ體、國各宜キヲ殊ニス、非常ノ事業、實ニ輕舉ニ便ナラス、我祖我宗、臨

照シテ上ニ在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、斷レテ之ヲ行フ、責朕カ躬ニ在リ、將ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ、國會ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、假スニ時日ヲ以テシ、輕重ノ責ニ當ラシム、其組織權限ニ至テハ、朕親ヲ衷ヲ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラントス  
朕惟フニ、人心進ムニ偏シテ、時會速ナルヲ饒フ、浮言相動カシ、竟ニ大計ヲ遺ル、是レ、宜シク今ニ及テ、諷訓ヲ明徴シ、以テ朝野臣民ニ公示スヘシ、若レ仍ホ故サラニ驟急ヲ爭ヒ、事變ヲ煽シ、國安ヲ害スル者アラハ、處スルニ國典ヲ以テスヘシ、特ニ茲ニ言明シ、爾有衆ニ諭ス

奉

太政大臣三條實美

勅 明治十四年一月十二日

○第六十號 十月二十一日

太政官中ニ參事院ヲ被置候條此旨布告候事

○第六十一號 十一月四日

鳥獸獵規則第三條及第六條中農商務省トアルヲ更ニ警視廳ト改正候條此旨布告候事

○第六十二號 十二月六日 (司法卿連名)

明治十年(一月)第十三號布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分規則ノ儀ハ明治十五年一

月一日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○第六十三號 十二月七日

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス(十四年百三號達ヲ以取扱手續ヲ定ム)

右奉 勅旨布告候事

(別紙) 褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者(孝子順孫節婦義僕ノ類)又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者(疏河築堤修路墾田ノ業或ハ貧院學校設立ノ類ヲ云フ)ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒賞ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒章ヲ與フルコト

アルヘシ  
第三條 己ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキ片ハ其都度飾版一個ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス  
第四條 褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レテ重罪ノ刑ニ處セラレタル片ハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス

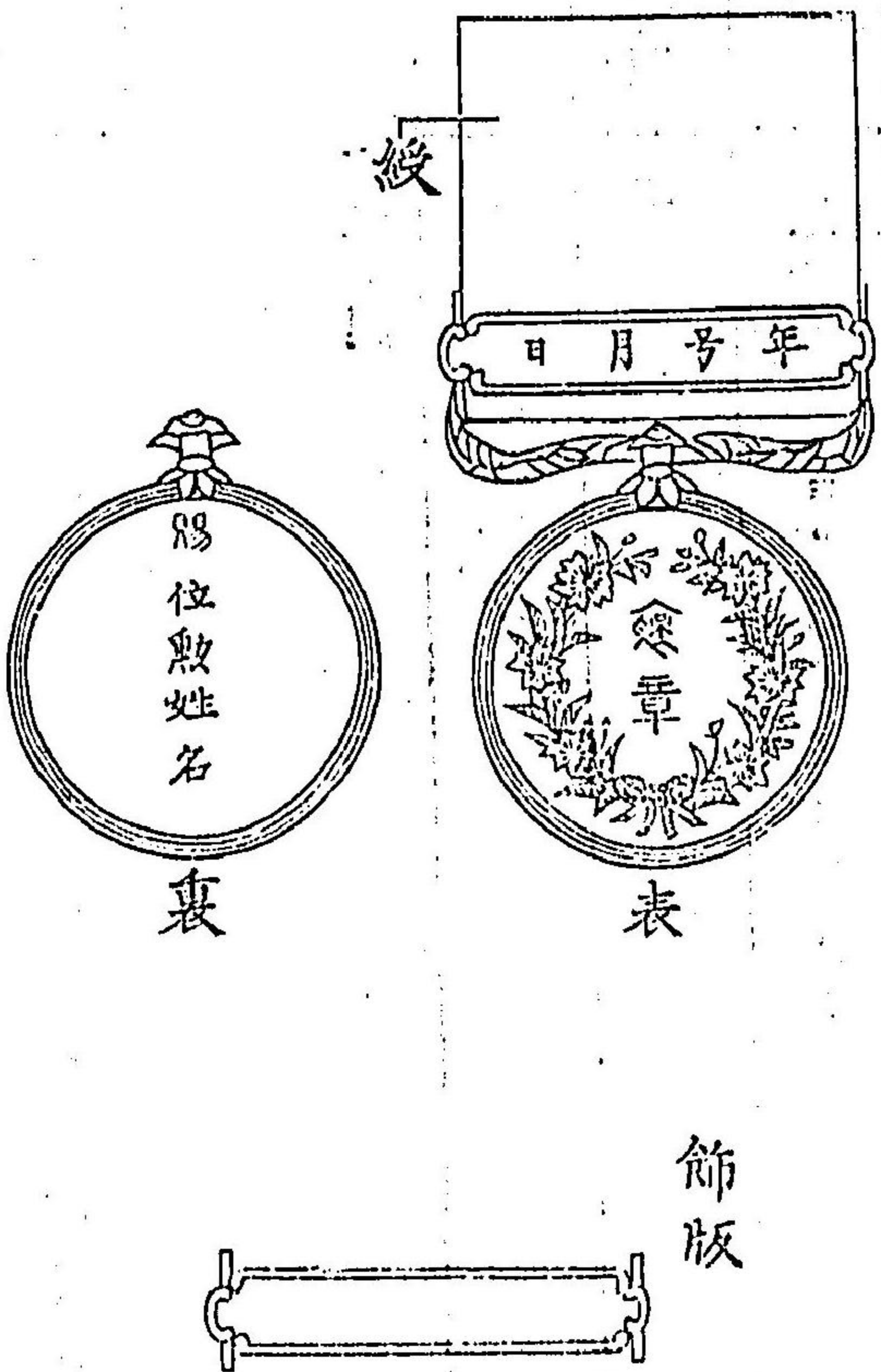
褒章ノ圖

|      |                   |
|------|-------------------|
| 章    | 銀櫻花紋圓形徑九分         |
| 鈕并飾版 | 銀                 |
| 綬    | 幅一寸種類ニヨリ紅綠藍三色ノ別アリ |

明治十四年

三百八十三

一 褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ  
但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ



○第六十四號 十二月九日

(司法卿連名)

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

右奉 勅旨布告候事

○第六十五號 十二月十五日

(農商務卿司法卿連名)

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

(別紙) 商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事  
件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證據及事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取集シ調書ヲ  
作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ  
着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐

割ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○第六十六號 十二月十六日

明治十年(八月)第五十六號布告北海道諸産物出港税則并各港船政所規則第二條中左ノ  
通改正ス(原達訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第六十七號 十二月十九日 (司法卿)

(連名)

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊) 刑法附則目錄

第一章 刑主執行

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

刑法附則

第一章 刑主執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ  
死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時  
前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴クシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サ  
ス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第三條 死刑ノ執行ヲ畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ罪  
名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

- |       |       |        |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 元 始 祭 | 孝明天皇祭 | 紀 元 節  | 春季皇靈祭 |
| 仁孝天皇祭 | 神武天皇祭 | 六月 大祓  | 秋季皇靈祭 |
| 神宮神嘗祭 | 天 長 節 | 後桃園天皇祭 | 新 嘗 祭 |
| 光格天皇祭 | 十二月大祓 |        |       |

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及穩婆ヲシテ之ヲ検査セシ  
メ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ  
更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケテ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ新劇故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ

明治十四年

三百八十七

下付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ  
刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前  
犯罪ノ地  
犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ己ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者及ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内吏ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 (明治十五年八月第四十二號布告改正) 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ

定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免狀ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スヘシ

第二十四條 (明治十五年八月第四十二號布告削除)

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ己ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受テ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資



力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ其典獄ヨリ其証票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄証票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 (明治十五年八月第四十二號布告改正) 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

- 一 每週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置スヘシ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 (明治十六年十二月第三十九號布告改正) 日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ據リ各地方適宜其額ヲ定ムヘシ

日當五拾錢以下  
旅費一里十錢以下  
止宿料一宿二十五錢以下  
住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス  
第五十一條 證人日當ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴収ス

第五章 賠償處分  
第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若ク

ハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス  
若シ公商ニ由ラスニテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ  
對シ轉價ヲ求ムルヲ得

第五十六條 贓物ヲ受テ又ハ典物トシテ受取タル物其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ム  
ヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トチ區別シ第五十五條ノ例ニ  
從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ  
損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ  
其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若  
シ其審判己ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ  
言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相続人ニ對シ之ヲ要求スルヲ

ヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨ  
リ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

○第六十八號 十二月廿六日 (農商務卿連名)  
明治十五年郵便規則及ヒ罰則ハ明治十四年郵便規則及ヒ罰則ヲ相用ヒ右規則中別紙ノ

通改正ス  
右奉 勅旨布告候事

(別紙廢止ニ付畧ス)  
○第六十九號 十二月廿八日 (陸軍卿連名)  
陸軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

陸軍刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例 自第一條至第十四條

明治十四年

|          |      |                |
|----------|------|----------------|
| 第二章      | 刑例   | 自第十五條至第三十五條    |
| 第三章      | 加減例  | 自第三十六條至第四十五條   |
| 第四章      | 數罪俱發 | 第四十六條          |
| 第五章      | 數人共犯 | 自第四十七條至第四十八條   |
| 第六章      | 未遂犯罪 | 第四十九條          |
| 第二編 重罪輕罪 |      |                |
| 第一章      | 反亂   | 自第五十條至第六十五條    |
| 第二章      | 抗命   | 自第六十六條至第六十八條   |
| 第三章      | 擅權   | 自第六十九條至第七十一條   |
| 第四章      | 辱職   | 自第七十二條至第七十五條   |
| 第五章      | 暴行   | 自第七十六條至第九十二條   |
| 第六章      | 侮辱   | 自第九十三條至第九十六條   |
| 第七章      | 違令   | 自第九十七條至第一百六條   |
| 第八章      | 逃亡   | 自第一百十七條至第一百二十條 |
| 第九章      | 詐僞   | 自第一百廿一條至第一百廿四條 |
| 陸軍刑法     |      |                |

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ讀法ノ式ニ由リ陸軍ニ從

事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル

者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此

刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條

第一項第九十五條第百一十一條第百十二條第百十三條第百十四條第百十五條第百十六

條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百十九條第百二十條ノ罪ヲ犯サシムル者

ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六條第五

十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ

非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十

三條ニ照シテ處斷ス

第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重

キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲クル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治産
- 五 監視
- 六 沒收

第十九條 陸軍法術ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十一條第二十

二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法術ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セズ禁錮拘

留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時

ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條三十六條第三十七條第三十八條第三十九

條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑

法ニ於テ之ヲ適用ス

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若シクハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルコトヲ得

第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲ケル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第二百一十一條ニ掲ケル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章第八章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲ケル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ劊官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 劊官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不論罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特別アル者ハ此限ニ在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第四章 數罪俱發  
第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル

時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法劊官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト劊官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ劊官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ劊官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第百九條ニ掲グル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス

但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス



第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁致峻者及ヒ群集ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁錮ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條

軍人反亂ヲ爲スコト謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條

軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ヲニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス

第五十三條

軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

第五十四條

軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ其他軍機軍情ヲ洩洩スル者ハ死刑ニ處ス

第五十五條

軍人敵國ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシテ黨ヲ

爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條

軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條

軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條

軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬪ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀛車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テテ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條

軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條

軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條

軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條

軍人前數條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

第六十三條

軍人前數條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖

モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ洩敷條ニ掲クル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ツル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

若シ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ四

月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相鬪毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助クル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若クハ現ニ戰鬥ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁瀛車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス  
其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若シクハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十一條 哨兵衛兵妄リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
第九十二條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條 軍人擅ニ哨兵ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合國ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若シハ臨戰合國ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰合國ノ地ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合國ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ

第一百二條 軍人戰時軍中若クハ合國ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セサル者

加ス

ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

第一百三條 軍人戰時軍中若クハ合國ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク

其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

第一百四條 司令官命令ニ從フヲ得サル時部署若クハ其命セラル、所ノ事ヲ變更シ直

チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス其事變ニ因リ暗號記號ヲ

改メ直チニ之ヲ申報セサル者亦同シ

第一百五條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍事ノ機密ヲ洩スル者ハ三月以上三年以下

ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

第一百六條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ二月以上

一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮

ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ一月以

上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮

ニ處ス

第四百八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四百十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第四百十一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四百十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四百十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四百十四條 軍人前二條ニ掲クル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一日以下ノ輕禁錮ニ處ス

上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第四百十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡

第四百十七條 軍人擅ニ職役若クハ屯營木隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス

第四百十八條 軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營木隊ヲ離ル、者ハ逃亡ト爲シ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四百十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕禁錮ニ處シ敵前ニ在テ

ハ死刑ニ處ス

其他ノ犯人ハ第四百十七條第四百十八條ニ照シテ處斷ス

第四百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受テ詐僞ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ僞リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、トシ圖ル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ル、トシ圖ル者亦同シ

○第七十號 十二月廿八日 海軍卿連名

海軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

海軍刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

自第一條至第五條

第二章 刑例

自第六條至第二十九條

第一節 刑名

自第六條至第九條

第二節 主刑處分

自第十條至第十五條

第三節 附加刑處分

自第十六條至第二十五條

第四節 刑期計算

第二十六條

第五節 假出獄

第二十七條

第六節 期滿免除

第二十八條

第七節 復權

第二十九條

第三章 加減例

自第三十條至第三十六條

第四章 不論罪及ヒ減輕

自第三十七條至第四十條

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條第三十八條

第二節 自首減輕

第三十九條

第三節 酌量減輕

第四十條

第五章 再犯加重

第四十一條第四十二條

|     |      |                  |
|-----|------|------------------|
| 第六章 | 加減順序 | 第四十三條            |
| 第七章 | 數罪俱發 | 自第四十四條至第四十六條     |
| 第八章 | 數人共犯 | 第四十七條第四十八條       |
| 第九章 | 未遂犯罪 | 第四十九條            |
| 第十章 | 名稱例  | 自第五十條至第五十五條      |
| 第二編 | 重罪輕罪 |                  |
| 第一章 | 反亂   | 自第五十六條至第七十二條     |
| 第二章 | 辱職   | 自第七十三條至第八十五條     |
| 第三章 | 抗命   | 第八十六條第八十七條       |
| 第四章 | 暴行   | 自第八十八條至第八十九條     |
| 第五章 | 侮辱   | 自第九十條至第九三條       |
| 第六章 | 燒燬毀壞 | 自第九十四條至第九九條      |
| 第七章 | 擅權   | 第一百十條第一百十一條      |
| 第八章 | 違令   | 自第一百十二條至第一百三十二條  |
| 第九章 | 逃亡   | 自第一百三十三條至第一百三十五條 |
| 第十章 | 詐僞   | 自第一百三十六條至第一百三十九條 |

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百二條第一百四條第一百五條第一百

六條第一百七條第一百八條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第一百三十

一條第一百三十二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處

斷ス

教唆若クハ幫助シテ第三百三十三條第三百三十四條第三百三十五條ノ罪ヲ犯サシメタル者

ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十

四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト



雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照  
シテ處斷ス

第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ從リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重  
キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第三百七十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラ  
ズ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期徒刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治產
- 五 監視
- 六 沒收

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法術ニ於テ死刑ニ處スル者亦同  
シ

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第二十條

第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二十二條 禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ普通刑

法第三十四條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主

刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七

條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復讐

第二十九條 復讐ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコト得ス

第三十一條 第九十九條第四百條第五百條第六條第七條第三百七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス  
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルコト得ス

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス  
第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス  
輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日  
以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十  
八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得  
此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕  
スルコトヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十二條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十  
七條第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得  
ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第百條第百二條第百三條ノ例ニ同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ  
從テ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍  
刑法ノ剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テ  
ハ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣  
告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九

條第一百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第三百十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス

但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ

將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ

軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ト同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有ス

スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁殺害者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス

其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二 諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期

流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スヲ謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ

前條ノ例ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サヲニ鎖撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦艇兵隊港灣堡壘造松所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥

糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル緊要ノ圖書ヲ敵ニ付シ若クハ土地道路ノ

要害險夷ヲ指示シ又ハ暗號軍機軍情ヲ洩シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦艇屯營造松所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス

可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死

刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セ

シメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降テシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦艇若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走

ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處

ス

第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ

爲シタル者ハ本條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ

未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ

付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者

ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付

シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得可キ時ニ於テ敵ニ降リ又ハ其艦艇若クハ守地ヲ

敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦艇若クハ兵隊ヲ率非

遁走シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乗員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先チテ其處ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乗員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方畧ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲サ、ル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

敵前ニ在テ我艦船ヲ救援ス可キ時故ナク其事ヲ爲サ、ル者亦同シ

第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乗入ラシメタル者ハ十日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十一條 司令官艦船ヲ護衛スルノ命ヲ受テ其艦船ヲ委棄シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ重禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十四條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍機若クハ軍事ニ關スル秘密ノ圖書ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請求ヲ受テ故ナク之ヲ肯セサル者ハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章 抗命

第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セサル者ハ

左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二 軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方畧ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
  - 三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
- 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二 軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
  - 三 其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁錮ニ處ス其他

ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ

第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ死刑ニ處ス

第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス



其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス  
首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ  
處ス

第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處  
シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 軍人多衆結合シテ相闘毆シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處  
シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十八條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁  
獄ニ處ス

第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ囚テ殺  
傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第一百條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮辱シタル時ハ一等ヲ加フ

第一百一條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者  
ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
第一百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮辱シ  
タル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 燒燬毀壞

第一百四條 軍人火ヲ放テ艦艇屯營造所造兵所武庫火藥庫其他戰闘ノ用ニ供スル屋舍  
若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第一百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械器具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタ  
ル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス
- 二 其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第一百六條 軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタ  
ル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第一百七條 軍人艦艇屯營造所造兵所武庫火藥庫其他戰闘ノ用ニ供スル屋舍若クハ軍  
用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シタル者ハ重懲役ニ處ス

第一百八條 軍人兵器彈藥機械器具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年  
以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章 擅權

第十條 司令官諱和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第十一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得サルノ理由ナク擅ニ艦艇若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章 違令

第十二條 司令官艦艇若クハ兵隊ヲ率テ故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二 軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス
  - 三 其他ノ場合ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス
- 第十三條 將校艦艇ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
- 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二 軍中又ハ個岸坐礁其他艦艇救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ六月以上二

年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第十四條 將校艦艇ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
  - 二 軍中又ハ航海中ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
  - 三 其他ノ場合ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第十六條 軍人艦艇ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タス其艦艇ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦艇ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來ラス若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル時ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第十七條 軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
- 一 敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

二 軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
 三 其他ノ場合ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百十八條 軍人戰鬪ノ號報アル時故ナク其集合場ニ來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
 第百十九條 軍人允許ヲ得テ地方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ十日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百二十條 歸休若クハ非職ノ軍人徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
 一 出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 二 其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百二十一條 新募ノ兵徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
 一 出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 二 其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百二十二條 司令官事變ニ因リ己ムコトヲ得ス暗號記號ヲ改メ又ハ配置セラレタル地若クハ其命セラレタル所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十三條 軍人命ヲ受ケス艦船内ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但破壊若クハ危險ニ罹リタル船舶ノ商貨ヲ保護スル爲メ移積シタル者ハ此限ニ在ラス  
 第百二十四條 守兵妄リニ銃破ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百二十五條 軍人禮砲號砲其他空砲ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵瓦石等ヲ裝填シテ發射シタルモノハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂テサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
 第百二十六條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若シクハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百二十七條 軍人敵前軍中ニ在テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
 第百二十八條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
 看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁獄ニ處ス  
 第百二十九條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走

ノ方法ヲ指示シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁錮ニ處ス

第三百三十條 軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂  
犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百三十一條 軍人俘虜降人ヲ看守若シハ護送シ解送ニ因リ其逃走ヲ致シタル者ハ十  
一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三百三十二條 軍人逃走ノ俘虜降人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者  
ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其  
罪ヲ論セス

第九章 逃亡

第三百三十三條 軍人擅ニ艦艇屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ逃亡  
ト爲シテ處斷ス

一 敵前ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ  
附加ス

三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ

剝官ヲ附加ス

第三百三十四條 軍人四人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷  
ス

一 敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ六月以上二年以  
下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ  
其他ノ者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三百三十五條 軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス

第十章 詐偽

第三百三十六條 軍人敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受テ詐偽ノ報告ヲ爲シタル者又  
ハ戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十七條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付シタル者ハ輕懲  
役ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百三十八條 海軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體強弱ノ偽証ヲ爲シタル者ハ二  
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第三百三十九條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ル、コヲ圖リタル者ハ一月

以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

○第七十一號 十二月二十八日 (司法卿)

連名

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ

代理セシム

右奉 勅旨布告候事

○第七十二號 十二月二十八日

(司法卿)

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ

處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁錮及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未満ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以

下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ各可中付トアルハ

總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第七十三號 十二月二十八日

(司法卿)

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者

一未丁年者

二妻タル者

三白痴瘋癲人

四治産ノ禁ヲ受ケタル者

法律ニ定メタル代人

一未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人

二夫タル者

三白痴瘋癲人ノ保管者

四治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

民事擔當人

一未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者  
ニ夫タル者

三白痴瘋癲人ノ保管者

四雇主 但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

右奉 勅旨布告候事

○第七十五號 十二月廿八日

(農商務  
卿連名)

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年

(六月)第八十二號同年(六月)第九十四號同年(十二月)第百五十三號同年(十二月)第百

五十七號十三年(十二月)第五十八號十四年(二月)第十三號同年(三月)第十八號布告ハ

同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸船ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於クル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ル

ノ沿岸及ヒ薩俄噠諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條 船長運轉手機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農

商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條 免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長一等運轉手

二等運轉手一等機關手二等機關手ノ五ニ分チ各試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與ス

ヘシ

第三條 試驗ノ規程ハ第一號布達ニ據ルヘシ

第四條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スル

ヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手機關手ノ免狀ニ於

タルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船々長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等

機關手免狀小形船機關手免狀ニ於タルモ亦同シ

第五條 從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙

種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船々長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當

分ノ内本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

明治十四年

四百五十一

第六條 免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ証人ヲ要ス

第七條 免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條 甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條 左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乗組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿

外國航船

甲種免狀船長  
同一等運轉手

一名以上

三百噸以上

同

甲種免狀船長  
同一等運轉手  
同一等運轉手

同

一百馬力未滿

同

同一等機關手

同

一百馬力以上

同

同一等機關手  
同一等機關手

同

第二項

一百噸以上

內國航船

乙種免狀船長  
同一等運轉手

同

三百噸未滿

同

乙種免狀船長  
同一等運轉手

同

三百噸以上

內國航船

同一等運轉手  
同一等運轉手  
甲種免狀船長  
同一等運轉手

一名以上

五百噸以上

同

乙種免狀二等機關手  
同一等運轉手

同

二十馬力以上

同

乙種免狀一等機關手

同

五十馬力未滿

同

乙種免狀一等機關手  
若クハ甲種免狀二等機關手

同

五十馬力以上

同

甲種免狀一等機關手  
甲種免狀二等機關手

同

第三項  
二十噸(汽船)以上

同

乙種免狀二等運轉手  
若クハ從前ノ小形船々長

同

一百噸未滿

同

小形船機關手

同

二十馬力未滿

港内若クハ湖川用

小形船機關手

同

二十馬力未滿

同

小形船機關手

同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乗組マシムヘシ  
前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止停止ニ係リ受有シ能ハス  
シテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ランメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セ

シムル者ハ各貳圓以上二百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條 農商務卿ハ船長運轉手機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スル片又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋ノ吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一 亂醉、粗暴其他不品行若クハ指揮ニ悖戻シ又ハ職務ニ怠ル者

第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷痕ヲ被ラシメシ者

第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレシ者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルトキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スル片ハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルトキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサル者ハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一々年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○第七十七號 十二月廿八日

(司法卿) 連名

本年(十月)第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川鹽岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十四號布告但書ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第七十九號 十二月廿八日

(司法卿) 連名

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年(十月)第五十三號ヲ以テ布告候處北海道(函館始審裁判所管内ヲ除ク)并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分従前ノ通其所轄ノ管轄ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○第八十號 十二月廿八日

(司法卿) 連名

(十八年三十一) 號ヲ以廢止



本年(九月)第四十八號布告左之通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及其分署ニ於テ裁判セシムヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第八十一號 十二月廿八日

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ

第一條 新舊法比照左ノ如シ

- |   |      |    |      |
|---|------|----|------|
| 一 | 死刑   | 新法 | 舊法   |
| 二 | 無期徒刑 | 斬絞 | 懲役終身 |
| 三 | 有期徒刑 |    |      |
| 四 | 無期徒刑 |    | 禁獄終身 |
| 五 | 有期徒刑 |    |      |
| 六 | 重懲役  |    | 懲役十年 |
| 七 | 輕懲役  |    | 懲役七年 |
| 八 | 重禁獄  |    | 禁獄十年 |

- 九 輕禁獄 禁獄七年
- 十 重禁獄 懲役十一日以上五年以下
- 十一 輕禁錮 禁獄鎖錮十一日以上五年以下
- 十二 罰金 贖罪收贖罪金科料貳圓以上
- 十三 拘留 懲役禁獄鎖錮拘留十日以下
- 十四 科料 贖罪收贖罰金科料貳圓未滿

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)若シ舊法ノ刑期新法死刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過クルコトヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル者ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

從フ(舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル者ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ壹圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但壹圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セ

ス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス  
右奉 勅旨布告候事

○第八十二號 十二月廿八日 (司法卿 連名)  
大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラス仍ホ從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ

右奉 勅旨布告候事  
○第八十三號 十二月廿八日 (司法卿 連名)

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訟訴事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訟訴ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルコトヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所  
權外ノ訟訴ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁  
判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

○明治十五年之部

○第一號 一月九日 (司法卿連名)

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辨護人ナクシテ辨論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効  
ナカルヘシト有之候得共其裁判所所屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辨護人ヲ用  
ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

右奉 勅旨布告候事

○第二號 一月二十日 (内務卿大藏卿連名)

明治十三年(四月)第十六號布告地方稅規則中左ノ通改正明治十五年七月一日ヨリ施行  
ス(原簿訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第三號 一月九日 (内務卿大藏卿連名)

明治十三年(四月)第十七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正明治十五年七月一日ヨ  
リ施行ス(原簿訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第四號 一月廿六日 (海軍卿陸軍卿連名)

陸軍刑法海軍刑法第二條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ規則ニ從フヘシ

第一條 新法ト舊法トノ刑ヲ比照スルニハ別表ニ從フ  
 第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニアル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス(舊法ニ於テ百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ニ處スルノ類)  
 若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ杖五十錮四十二日若クハ閉門半年後停官ニ該ル者新法ニ照シ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ杖五十錮四十二日若クハ閉門半年後停官ニ處スルノ類)  
 第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過クルコトヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ニ該ル者新法ニ照シ三月以上四年以下ノ禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ニ處スルノ類)  
 若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ  
 第四條 新舊ノ法ヲ比照シ新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ普通刑法第卅一條第二項第三項(位記貫號ヲ除ク)第四項第五項及第四十三條ヲ除クノ外附加刑ヲ科セス  
 第五條 新舊ノ法ヲ比照シ新法ニ從ヒ輕罪ノ刑ニ處スル時監視ハ之ヲ附加セス  
 第六條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以本刑トナス

右奉 勅旨布告候事

別表

| 刑 期   | 將 校 刑 名   | 下 士 刑 名     | 卒 夫 刑 名  |
|-------|-----------|-------------|----------|
| 十 年   | 流 刑       | 同           | 同        |
| 三 年   | 閉門半年後停官   | 徒 三 年       | 同        |
| 二 年   | 森 官       | 徒 二 年       | 同        |
| 一 年   | 閉門半年後同籍   | 徒 一 年       | 同        |
| 百 日   | 回 籍       | 戒 役         | 同        |
| 九 十 日 | 閉門半年後停官   | 錮三十五日後黜等    | 杖五十錮四十二日 |
| 八 十 日 | 閉門四十二日後停官 | 錮三十五日後降等    | 杖四十錮三十五日 |
| 七 十 日 | 停 官       | 錮三十五日後降等一年半 | 杖三十錮二十八日 |
| 六 十 日 | 降 等       | 降 等 一 年 半   | 杖三十錮二十八日 |
|       |           | 降 等 一 年     | 杖二十錮二十一日 |

明治十五年

|     |        |   |   |   |   |     |      |
|-----|--------|---|---|---|---|-----|------|
| 五十日 |        | 降 | 等 | 半 | 年 | 管十五 | 錫十四日 |
| 四十日 | 閉門九十八日 | 錫 | 四 | 十 | 二 | 日   | 同    |
| 三十日 | 閉門四十九日 | 錫 | 三 | 十 | 五 | 日   | 同    |
| 二十日 | 閉門三十五日 | 錫 | 二 | 十 | 八 | 日   | 同    |
| 一十日 | 謹慎三週日  | 同 |   |   |   |     | 同    |
|     | 謹慎二週日  | 同 |   |   |   |     | 同    |

○第五號 一月二十八日 (司法卿) 連名  
 明治十四年(十二月)第八十三號ヲ以テ民事裁判權限ノ儀布告候處當分ノ内西郷相川豐岡洲本印邊脇町高山平戸福江嚴原天草大曲八戸大島治安裁判所ニ於テ民事ノ訴訟ハ始審裁判所ノ權限ヲ以テ裁判スヘシ  
 但請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ件ニ關スル控訴ハ管轄始審裁判所ニ之ヲ爲スヘシ  
 右奉 勅旨布告候事

○第七號 二月一日 (司法卿) 連名  
 治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定ム  
 右奉 勅旨布告候事

○第八號 二月八日 (内務卿) 連名  
 開拓使ヲ廢シ函館、札幌、根室、ノ三縣ヲ置ク  
 但管轄區畫ハ追テ布告スヘシ (十五年十五號ヲ以管轄區畫ヲ定ム)  
 右奉 勅旨布告候事

○第九號 二月九日 (内務卿) 連名  
 今般北海道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ被置候處法律規則ノ從前北海道ニ施行セサルモノハ當分ノ内仍ホ從前ノ通タルヘシ  
 右奉 勅旨布告候事

○第十號 二月十四日 (内務卿) 連名  
 明治十三年(四月)第拾五號及同年十一月第四拾九號布告府縣會規則中左ノ通改正追加ス (原達訂正)  
 右奉 勅旨布告候事

○第十三號 二月廿二日 (海軍卿) 連名  
 明治六年(十二月)第四百拾六號布告海軍旗章中隊附國旗幟旗ヲ廢シ水路嚮導旗ヲ要招水先旗ト改稱左ノ如ク其旗章ヲ改ム (原達訂正)  
 右奉 勅旨布告候事

○第十四號 二月二十五日

(司法卿)

舊開拓使官廳ニ於テ取扱來候裁判事務ハ自今司法裁判所ヲ置キ之ヲ管理セリム

但裁判所ノ位置管轄及ヒ權限等追テ布告候迄從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第十五號 二月二十八日

(內務卿)

函館札幌根室三縣管轄區畫并縣廳位置左ノ通之ヲ定ム

函館縣 縣廳位置 渡島國龜田郡函館

管轄

渡島國 一圓

後志國ノ内八郡

磯谷郡 歌來郡 壽都郡

太樺郡

瀬棚郡

久遠郡

奥尻郡

島牧郡

膽振國ノ内 山越郡

札幌縣 縣廳位置 石狩國札幌郡札幌

管轄

石狩國 日高國 十勝國

天鹽國

一圓

後志國ノ内九郡

小樽郡 高島郡

余市郡

美國郡

積丹郡

古宇郡

忍路郡

岩内郡

古平郡

膽振國ノ内七郡

虻田郡 有珠郡

室蘭郡

幌川郡

勇拂郡

白老郡

千歲郡

北見國ノ内四郡

宗谷郡 枝幸郡

利尻郡

禮文郡

根室縣 縣廳位置 根室國根室郡根室

管轄

根室國 釧路國

千島國

一圓

北見國ノ内四郡

紋別郡 常呂郡

網走郡

斜里郡

右奉 勅旨布告候事

○第十六號 三月三日

樺戶集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於

テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

明治十五年

四百六十七

右奉 勅旨布告候事

○第十九號 三月二十九日

(司法卿 連名)

明治十四年(九月)第四十五號布告廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○第二十號 四月八日

(陸軍卿海軍卿 連名)

舊軍律及ヒ普通刑法共ニ罪名アリテ所犯刑法施行以前ニ係ル者ハ本年(二月)第四號布告ノ例ニ準シ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス可シ

但罰金科料ニ該ル者ハ明治十四年(十二月)第八十一號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第二十一號 四月二十六日

(司法卿 連名)

明治十年(二月)第十九號布告控訴上告手續第五條中三ヶ月トアルハ總テ二ヶ月ト改正ス

右奉 勅旨布告候事

○第二十二號 五月十日

(大藏卿 連名)

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日內ニ訴出ツヘシ但納稅期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ

其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第二十三號 五月十三日

(陸軍卿司法卿 連名)

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

○第二十四號 五月二十日

(大藏卿 連名)

明治十四年(二月)第十四號布告但書左ノ通改正ス(原達訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第二十五號 五月廿四日

(司法卿 連名)

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ補助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購

買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但

初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ

免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免ゼス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉 勅旨布告候事

○第二十六號 五月廿四日 (農商務卿連名)

明治九年(八月)第百五號布告米商會所條例中左ノ通改正追加シ來ル七月一日ヨリ施行

但明治八年(五月)第八十八號布告ハ廢止トス (原達訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第二十七號 六月三日 (內務卿連名)

明治十三年(四月)第十二號布告集會條例左ノ通改正追加シ同年(十二月)第五十六號布告ヲ廢止ス (原達訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第三十號 六月二十日 (司法卿連名)

札幌根室ノ各始審裁判所ニ於テハ當分ノ内治罪ノ手續便宜取計且重罪犯ハ之ヲ審訊シ証憑擬律按ヲ具ヘ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第三十一號 六月二十三日 (內務卿連名)

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ檢査ヲ受テ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸

並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但檢疫官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇



泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得（十八年二十九號ヲ以但書追加）

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ（若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ）地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シクハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ  
右奉 勅旨布告候事

○第三十二號 六月廿七日 （大藏卿）  
連名

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但シ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スル片ハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル片ハ銀行ニ命ジテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分テ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル片ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但シ資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムルモノトス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金額ノ内幾分ヲ減少シタル片ハ其事由ヲ密

明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ルマテノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル片ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸証券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債証券政府發行ノ手形其他政府ノ保証ニ係ル各種ノ証券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但シ其金額及ヒ利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲グル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 日本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ因リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但シ此銀行券ヲ發行セシムル片ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及ヒ切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債証券ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スルモノトス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ヶ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第二十條 理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條 大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及ヒ約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スルキハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スルコトハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スルキハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告スヘシ  
右奉 勅旨布告候事

○第三十三號 七月八日

明治十四年(十二月)第七十八號ヲ以テ重罪裁判所管轄區畫布告候所沖繩縣管内重罪犯

所分ノ儀ハ當分ノ内同縣ニ於テ審訊シ証憑擬律按ヲ具ヘ長崎控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ治罪ノ手續ハ便宜ノ取計ヲ爲スコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第三十五號 七月廿八日

(大藏卿連名)

明治十年(二月)第十八號布告第三條左ノ通改正ス

第三條 (原達訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第三十六號 八月五日

(内務卿陸軍卿海軍卿司法卿連名)

戒嚴令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合國地境ノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲

明治十五年

四百七十七

スモノナリ

第二 合國地境ハ敵ノ合國若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ  
合國ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合國若クハ攻撃ヲ  
受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰界上臨機ノ處分ヲ要スル片  
ハ田征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ  
上奏シテ命ヲ請フヘシ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ片ハ直ニ戒嚴  
ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府  
長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル片ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申  
スヘシ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ變キニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合國地境ノ區畫ヲ改正スルコ  
ト

但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申スヘシ

ヲ得

第九條 臨戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ  
其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴  
ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合國地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ  
委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ  
速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十一條 合國地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ  
軍術ニ於テ裁判ス  
刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

明治十五年

四百七十九

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合國地境内ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ片ハ民事刑事ノ別

ナク總テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合國地境内ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 戒嚴地境内ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行

ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一 集會若クハ新聞紙雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ハ停止スル事

第二 軍需ニ供スヘキ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スル事

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ該ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時

機ニ依リ押収スル事

第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海道路ヲ停止スル事

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スル事

第六 合國地境内ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢査スル

事

第七 合國地境内ニ寄宿スル者アル片ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムル事

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日マテハ其効力ヲ

有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

○第三十七號 八月五日

陸軍卿海軍卿連名

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

右奉 勅旨布告候事

明治十五年

○第三十九號 八月十一日

(內務卿  
連名)

(十六年卅五  
號ヲ以廢止)

醫師タル者醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アルハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得

但其事開業免許ヲ得ルノ前ニ在リト雖本項ニ準シテ處分スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第四十一號 八月十二日

(司法卿  
連名)

空知集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○第四十二號 八月十二日

(司法卿  
連名)

明治十四年(十二月)第六拾七號布告刑法附則第二十二條及四十二條左ノ通改正シ第二十四條ヲ削除ス

(原簿訂正)

右奉 勅旨布告候事

○第四十三號 八月十二日

(內務卿陸軍卿海軍卿  
農商務卿司法卿連名)

徵發令別冊ノ通制定ス(十五年二十六號布達ヲ以徵發事務條例ヲ定ム)  
右奉 勅旨布告候事

別冊

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發スヘキモノノ種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ准ス)ヲ定ムルヲ左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ

府 縣

二 第十二條第三項及十三條第三項ハ

郡區

三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ

町村

四 船舶會社所有ノ船舶及鐵道會社所有ノ瀛車ハ

會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付スヘシ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定スヘキモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アル者トス若シ其時期ニ違フハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領証票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停

車場長船舶會社ノ店長スヘシ

第十二條 徵發スヘキモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣糠鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
  - 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
  - 三 人夫
  - 四 宿舍庭園及ヒ倉庫
  - 五 飲水石炭
  - 六 船舶
  - 七 鐵道瀛車
  - 八 演習ニ要スル地所
  - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發スヘキモノ左ノ如但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得
- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
  - 二 職工鍛夫洗濯人ノ類
  - 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥器具寢具藥劑治療器械及ヒ綳帶具

- 四 水車揚春ノ類
- 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
  - 一 皇族所用ノ車馬
  - 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
  - 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
  - 四 郵便用ノ車馬
  - 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受クヘキモノ左ノ如シ
  - 一 公務ニ屬スル麻署
  - 二 皇族ノ邸宅
  - 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
  - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
  - 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
  - 六 博物館書籍館
  - 七 病院盲啞養兒院

- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サズ但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第三項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシテ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルヲ得ズ但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルヲ得ズ但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
- 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
- 第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルヲアルヘシ
- 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルヲ許サズ庭園倉庫亦同シ
- 第二十二條 宿舍庭園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給スヘシ但



駐軍三日以上ニ至ルハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供

給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切ト

シテ之ヲ徵用スルコトアルヘシ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵

用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時

若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者

ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例ト

ス但合國地境内ニ在テハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ル者ハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セシ

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ

事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店

長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者

ト熟議調和セサルハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ述ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戸長ニ届出ヘシ

其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越コカラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主

若クハ操業者ニ於テ使用セシ片ハ無効トス

一 西洋形船舶

二 地所

三 其他ノ物件

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價

ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト

操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタル片ハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准メ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スル片及ヒ六里

以外ノ地ニ於テ使用スル片ハ第三十二條ノ例ニ係ハラヌ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食

飼ヲ官給ス但此ノ場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上タル片ハ勿論其他使用ノ

都合ニ依リ價格ノ預定ヲ要スル片ハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ付キ供給者ト熟

議調和セサル片ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ル者ハ第卅五條ニ准シ賠償シ第卅條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區

別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタル片ハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上

ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等

其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサル片ハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ業者平常ノ給料航船賃費及ヒ船

船ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ業者ニハ平常ノ給料航船ニハ第

四十二條ノ損料トス但シ船橋及ヒ船松ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三

項ニ準ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ

定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其

地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサル片ハ評價委員ノ

評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更

シタル片ニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ

賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若

クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサル片ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六

條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從テ賠償メ全ク明渡

サシムル片ハ第三十九條ノ例ニ準ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導

シタルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船會社ノ店長其

處置ヲ爲サハルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金

ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官

憲徵發書ヲ出シタル片ハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劍官ヲ附加ス

○第四十四號 八月十六日 (內務卿)

明治十四年(九月)第五十號布告石油取締規則施行日限ノ儘更ニ明治十六年七月一日ト

改定(十六年十號ヲ以追テ布告候マテ日限延期)

右奉 勅旨布告候事 (大藏卿)

○第四十五號 八月十八日 (連名)

半圓貳拾錢ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條當分之内  
在來ノ紙幣ト取交セ通用スヘシ

但本文紙幣見本ハ大藏省ヨリ各府縣ヘ下渡スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第四十六號 八月十九日 (農商務卿)

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル

爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營

業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

○第四十七號 八月廿六日 (內務卿)

明治十三年(七月)第三拾四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分ヲ施

行セス

右奉 勅旨布告候事

○第四十九號 九月三十日 (內務卿)

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス (連名)

行旅死亡人取扱規則

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地ヘ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルルル戸長ハ死亡ノ狀況并ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長ヘ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルルルハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルルルハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルルル戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場ヘ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルルル該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルルルルル之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルル能ハサルルル直ニ其物品ヲ公賣スルルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルルルル之ヲ本籍ヘ送付スヘシ其本籍氏

名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○第五十號 九月三十日

(内務卿 連名)

明治四年(四月)廿三日布告脫籍無產ノ輩復籍遞送規則同年六月十七日布告行旅病人取扱規則同年十二月二十六日脫籍無產ノ徒復籍方布告并ニ十年(十二月)第九十五號達十一年(十一月)第四十七號達同年(十二月)第五十五號達ハ之ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

○第五十一號 十月二十七日

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

|        |      |    |     |      |      |
|--------|------|----|-----|------|------|
| 一定價壹錢迄 | 印稅壹厘 | 一全 | 貳錢迄 | 一全   | 貳厘   |
| 一全 三錢迄 | 全 三厘 | 一全 | 五錢迄 | 全 五厘 | 全 五厘 |

明治十五年

四百九十五

一全 拾錢迄 全 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ増加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

|    |     |    |     |
|----|-----|----|-----|
| 壹厘 | 淡黑色 | 貳厘 | 青色  |
| 三厘 | 黃色  | 五厘 | 茶褐色 |
| 壹錢 | 赭色  | 貳錢 | 綠色  |
| 三錢 | 濃青色 | 四錢 | 橙黃色 |
| 五錢 | 紫色  | 拾錢 | 深紅色 |

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタルモノハ貳圓

以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓

以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

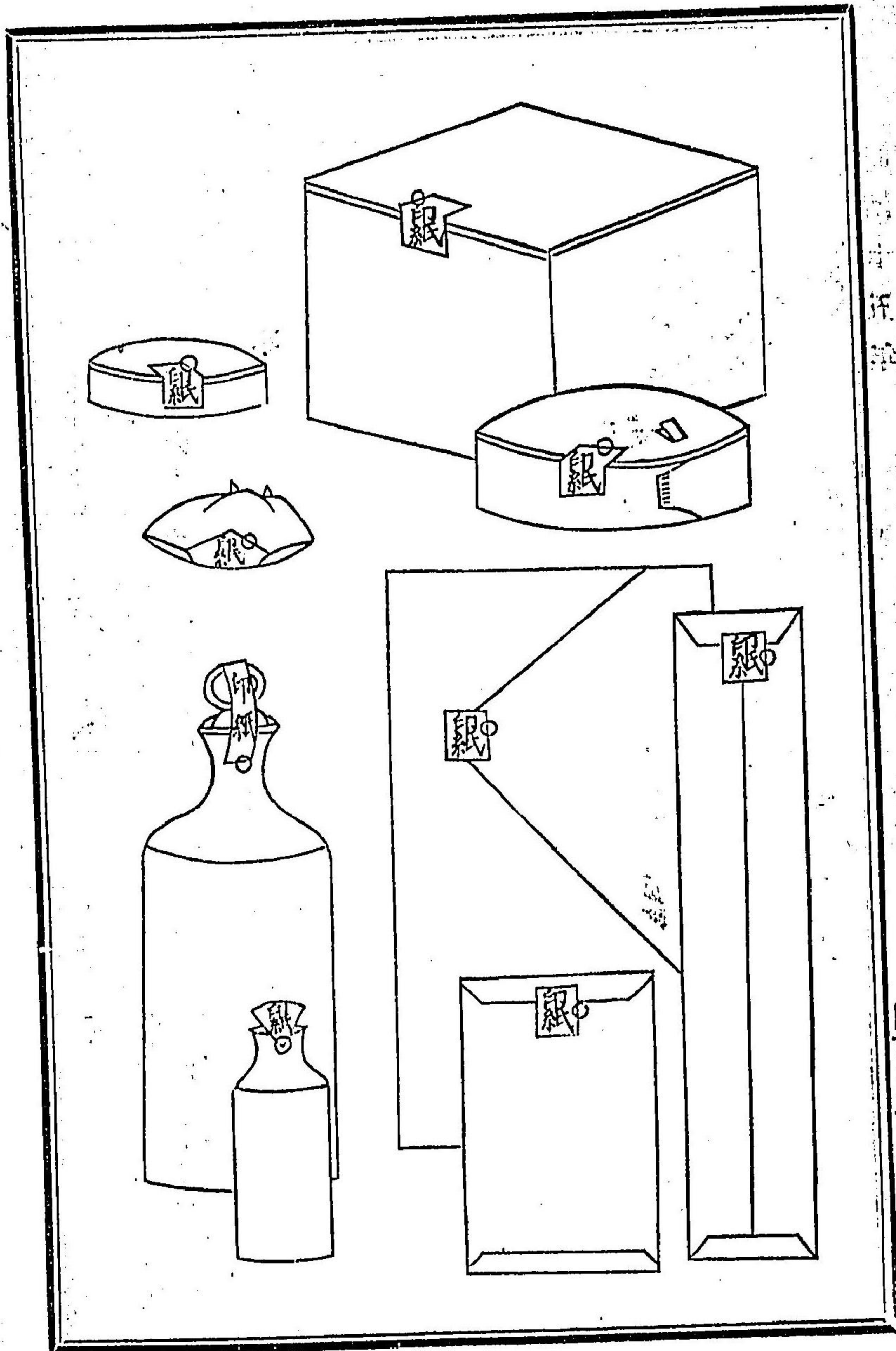
第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍

ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍

ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事



○第五十三號 十月廿七日

明治十年(一月)第七號布告賣藥規則中左ノ通追加ノ來明治十六年一月一日ヨリ施行ス  
第二條へ但書追加(原達訂正)

第十六條中右鑑札料云々ノ項へ但書追加(原達訂正)  
右奉 勅旨布告候事

○第五十三號 十一月十三日 (司法卿 連名)

治罪法第二百六條第二百七條中二十四時内ト有之處已ムヲ得サル場合ニ於テハ管分ノ  
内五日以内ニ於テスルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第五十四號 十一月廿二日 (外務卿 連名)

今般朝鮮國ト別紙ノ通修好條規續約ヲ訂定交換ス

右奉 勅旨布告候事

別紙

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル  
大日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス大日本國辦理公使花房義實及大朝鮮國全權大臣  
李裕元全權副官金宏集ヲ以テ雙方全權委員ト爲シ明治十五年八月三十日朝鮮國濟物浦

明治十五年

ニ於テ大日本國ト大朝鮮國トノ間ニ取結ヒシ修好條規續約書ヲ朕親ヲ閱覽セシニ能ク朕カ意ニ適シ更ニ間然スヘキナシ故ニ凡テ其約書條款ニ掲クル本趣ハ朕茲ニ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百四十二年

明治十五年十月三十日東京宮中ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國 璽

奉 勅 外務卿正四位勳一等井上 馨

大日本國辦理大臣花房義實ト大朝鮮國全權大臣李裕元副大臣金宏集ト明治十五年八月三十日(朝鮮國四百九十一年七月十七日)仁川府濟物浦ニ在テ商訂シタル追加條約ヲ今兩國ノ批准ヲ經テ大日本國外務卿井上馨ト大朝鮮國特命全權大臣兼修信使朴泳孝副大臣金晚植ト東京ニ於テ互ニ相查照シ以テ之ヲ交換シ各名ヲ署シ印ヲ鈐シ以テ證トナス  
大日本國明治十五年十月三十日 大日本國外務卿 井上 馨  
大朝鮮國開國四百九十一年九月二十日 大朝鮮國特命全權大臣兼修信使朴泳孝 大朝鮮國副大臣 金 晚 植  
日本國ト朝鮮國ト嗣後益々親好ヲ表シ貿易ヲ便ニスル爲メ茲ニ續約ニ款ヲ訂定スルコト左ノ如シ

第一 元山釜山仁川各港ノ間行里程今後擴メテ四方各五十里ト爲シ(朝鮮里法)二年ノ後ヲ期シ(條約批准ノ日ヨリ周歲ヲ算シテ一年ト爲ス)更ニ各百里ト爲ス事  
今ヨリ一年ノ後ヲ期シ楊花鎮ヲ以テ開市場ト爲ス事

第二 日本國公使領事及ヒ其隨員眷從ノ朝鮮內地各處ニ遊歴スルヲ任聽スル事  
遊歴地方ヲ指定シ禮曹ヨリ證書ヲ給シ地方官證書ヲ驗シテ護送ス

右兩國全權大臣各々諭旨ニ據リ約ヲ立テ印ヲ蓋シ更ニ批准ヲ請ヒ二月ノ内(日本  
明治十五年十月朝鮮開國四百九十一年九月)日本東京ニ於テ交換スヘシ

大日本國明治十五年八月三十日  
大朝鮮國開國四百九十一年七月十七日

日本國辦理公使花房義實 印  
朝鮮國全權大臣李 裕 元 印  
朝鮮國全權副官金 宏 集 印

○第五十七號 十二月十一日 (司法卿 連名)

爲替手形約束手形條例別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事 (別冊) 爲替手形約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印スヘシ

一金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出ス一ヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キ一ヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六月以内トス

以內トス

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スル一

ヲ得

第三節 爲替資金

爲替資金



第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保證

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保證セシムルヲ得 保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載ス可シ

第十八條 振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名

調印ス可シ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立テシムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立テタル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免ル者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂ヲ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求スヘシ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求スヘシ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ請取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金

額ト引換ヘ支拂人ニ交付スヘシ

第二十九條 一ノ爲替ニ付手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シテ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルコト肯セヌ又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戶長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用スヘシ

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルコト得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ証書並ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルコト得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルコト得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムコト得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引換ヘシ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルコト得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人、手形ヲ紛失シタル時、ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ、又電信書留郵便其他証據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ、其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ、代手形ヲ請ヒ受各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコトヲ得、但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルコトヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受テ得サル時、ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ眞正ノ所持人タル旨ヲ證明シ、支拂ヲ請求スルコトヲ得、但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルコトヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

△明治十六年一月大藏省第八號告示

明治十五年十二月第五十七號布告ヲ以テ爲換手形約束手形條例發行相成候ニ付テハ、右手形ニ關スル書式ハ總テ別冊離形ニ添據可致此旨告示候事

爲替手形約束手形書式

第一號

爲替手形書式(條例第二條)

○陸四寸八分

○印朱書

表

金、〃、〃、〃、圓

|    |     |     |    |    |
|----|-----|-----|----|----|
| 番號 | 仕拂人 | 受取人 | 日附 | 期限 |
|    |     |     |    |    |

割印

番號

爲替手形

印紙

一金、〃、〃、〃、圓

來何月何日  
御一覽次第  
御一覽後幾日目

何某殿又、同人指圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也

何府何町何番地

何某印

〇振出人氏名

年月日

面

〇横八寸五分

何府何町何番地

何某殿

〇支拂人氏名

本文金額ノ下ニ西洋數字ヲ以テ更ニ其金額ヲ複記スルモ妨ケナシ尤數字ハ字々密接ニ認メ改竄ノ弊ヲ防クニ注意スヘシ

第二號

同 (條例第三號)

番號

爲替手形

印紙

組之一

一金、〃、〃、〃、〃、圓

右金額來何月何日何某殿又、同人指圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也  
但此手形御仕拂ノ上ハ(組ノ二三)ハ無効タルヘキ事

何府何町何番地

何某印

年月日

表

明治十五年

五百十一

何府何町何番地  
何縣何村何番地  
何 某 殿

此手形若シ組ノ二ナル片ハ但書ニ組ノ一三云々ト記シ組ノ三ナル片ハ但書ニ組ノ一ニ云々ト記スヘシ

第三號

裏書ノ書式 (條例第十四條)

○買受人又ハ讓受人

表面之金額 何某殿又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也

何府何町何番地  
何縣何村何番地

何 某 印

○賣渡人又ハ讓渡人氏名

年月日

面 表

第四號

裏書補箋ノ樣式 (條例第十六條)

○本紙

○補箋

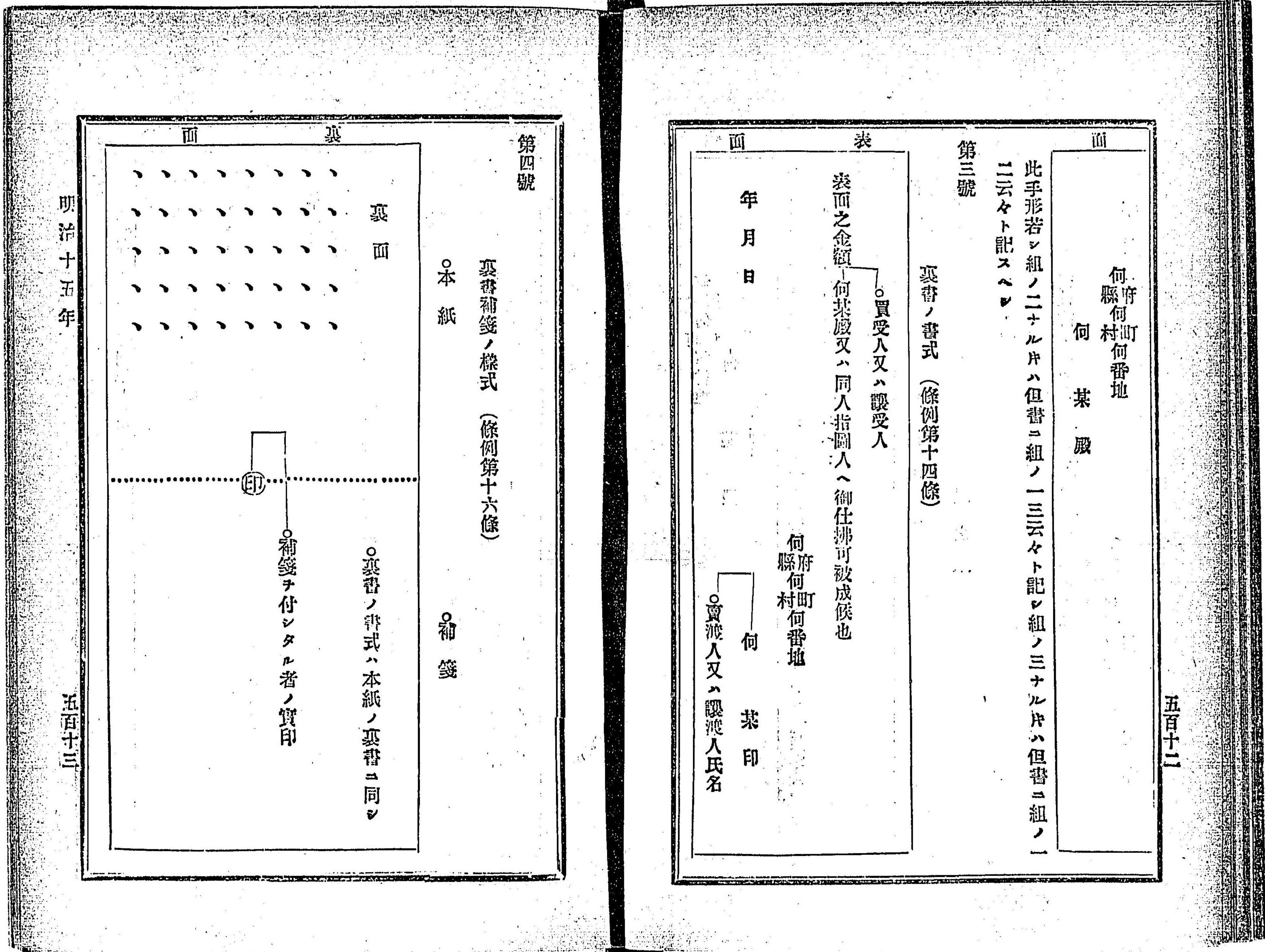
○裏書ノ書式ハ本紙ノ裏書ニ同シ

○補箋ヲ付シタル者ノ實印

裏 面

面 裏

明治十五年



第五號

別紙保証ノ書式(條例第十七條)

番號

何錢  
印紙

爲替手形

一金、〃、〃、〃、〃、圓也

右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖人ハ此手形引換ニ御仕拂可被成候也

年月日

何府何町何番地  
何縣何村何番地

〇保証人ヲ受クル者ノ氏名

右ニ騰寫スル本手形ノ金額「何某殿ニ於テ若シ仕拂無之節ハ拙者ニ於テ無相違仕

拂可申候也

何府何町何番地

何縣何村何番地

〇保証人ノ氏名

年月日

某印

第六號

引受ノ書式(條例第二十一條)

番號

印紙

爲替手形

一金、〃、〃、〃、〃、圓

右金額來ル何月何日何某殿又ハ同人指圖人ハ此手形引換ニ御支拂可被成候也

年月日

何府何町何番地

何縣何村何番地

何府何町何番地

何縣何村何番地

〇本文支拂之義引受申候也

保証ノ旨ヲ手形面ニ記載スル片ハ其保証ヲ受クル者ノ氏名ノ次ニ左ノ如ク記載スヘ

右何某保証人

何府何町何番地

何縣何村何番地

年月日

何 某印  
支拂人氏名

第七號

金額領收ノ書式(條例第二十八條)

裏書

、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、

○表面之金額正ニ受取候也

年月日

何 某印  
手形所持人氏名

第八號

拒ニ証書ノ書式(條例第三十二條)

本手形ノ金額(此ニ拒却ノ事由ヲ記スヘシ)拙者ニ於テ(引受)ノ請求ニ應シ難ク候也

年月日

何 某印  
支拂人ノ氏名

第九號

條例第三十三條始末書(支拂人拒ニ証書ヲ作ルヲ肯セサル時ノ文例)

別紙爲替手形(規定ノ期限内ニ於テ)ヲ請求セシ支拂人何某ニ於テ之ヲ拒ニ且拒ニ証書ヲ作ルヲ肯セサルニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

年月日

何 某印  
府 何 町 何 番 地  
縣 何 村 何 番 地  
○手形所持人氏名

前書ノ趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場証印

第十號

同(支拂人住所分明ナラサル時ノ文例)

別紙爲替手形(引受)請求ノ爲メ本手形ニ指示シタル支拂人何某住所何 府 何 町 何 番 地ニ差越候處住所不明ニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

明治十五年

五百十七

年月日

前書之趣相違無之候也

何府何町何番地

何 某印

郡區役所若クハ戸長役場証印

第十一號

同(支拂人不在ナル時ノ文例)

別紙爲替手形

(引受仕拂)

請求ノ爲メ支拂人何某方へ差越候處同人不在ニテ代理人無之

ニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致候也

何府何町何番地

何 某印

年月日

前書之趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場証印

第十二號

約束手形書式(條例第四十三條)

○寸方爲換手形ニ同

金、、、、圓

|    |     |    |    |
|----|-----|----|----|
| 番号 | 受取人 | 期限 | 日附 |
|    |     |    |    |

御印

番號

約束手形

印紙

一金、、、、圓

右金額奉何月何日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違支拂可申候也

何府何町何番地

何 某印

年月日

何府何町何番地

何 某殿  
○受取人氏名

明治十五年

五百十九



約束手形ニ關スル裏書同補箋、保証、領收、拒ミ証書、始末書等ノ書式ハ總テ爲替手形ノ文例ニ準スヘシ

○第五十八號 十二月十二日 (内務司法) 兩卿連名 請願規則左ノ通制定ス

請願規則

- 第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ
- 第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
- 府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
- 各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
- 第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス
- 第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戶長ニ請願スル者ヲ除ク外住

- 所戶長ノ與印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルキハ其由ヲ肩書スヘシ戶長ノ與印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ
- 第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス
- 第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代ヲ撰ヒ之ニ委託スヘシ
- 第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得
- 第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ
- 第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非ラサルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ
- 第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ
- 第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス
- 第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス
- 第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ  
規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル  
者ハ受理セス

第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一  
年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ノ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論  
ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發  
起人ト同ク罪ヲ論ス

其囑聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第  
一項ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス  
右奉 勅旨布告候事

○第五十九號 十二月十六日

(農商務  
卿連名)

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス  
右奉 勅旨布告候事

(別冊) 郵便條例目次

- 第一章 郵便物
- 第二章 郵便税
- 第三章 郵便切手封皮葉書帶紙
- 第四章 稅郵便
- 第五章 書留郵便
- 第六章 郵便物遞送配達
- 第七章 別配達郵便
- 第八章 郵便私書函
- 第九章 留置郵便
- 第十章 貨幣封入郵便
- 第十一章 郵便沒書
- 第十二章 郵便爲替
- 第十三章 驛遞局貯金

第十四章 外國郵便

第十五章 罰則

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種トナス

一 書狀

二 郵便葉書及往復葉書(十七年第三十三號布告追加)

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附錄

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫真、書畫、繪圖、封紙、營業品ノ見本及雛形

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵触セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スル片ハ總テ第一種郵便物ト爲スヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙配違又ハ返戻ノ爲 其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一 一葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ

驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附錄ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサシメ本紙ニ添付シ

且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スル片ハ第一種郵便物トナ

スヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノ、問ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額税ヲ課スヘキ郵便物トナ

スヘシ但第四條ニ記載シタル者ハ此限ニアラス

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種郵便物(營業品ノ見本及雛形ヲ除ク)一箇ノ重量三百目ニ超過

スヘカラス

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一箇ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

- 一 毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃燒腐敗シ易キ物、浮化スヘキ物、動物、植物、及鋒刃器
- 一 硝子器、陶器、等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品
- 一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫真及物品
- 一金銀、寶玉
- 一 貨幣但十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

第十七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種 郵便物 重量ニ匁毎ニニ匁未滿 亦同

第二種 郵便物 (葉書一葉 往復葉書一葉)

第三種 郵便物 (一號一個重量十六匁毎ニ(十六匁未滿亦同シ) 二號又ハ二個以上ニ束重量十六匁毎ニ(十六匁未滿亦同シ))

第四種 郵便物 重量八匁毎ニ 亦同

貳錢 壹錢 貳錢 壹錢 貳錢

第十八條 郵便税ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條 納税ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ税額印面ハ郵便局ニ於テ消印ス

第二十條 郵便税ニ過納アルモ己ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラズシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徴收スヘシ

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スル片亦同

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ